
DNA捜査

fumia

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

DNA捜査

【コード】

N4502BA

【作者名】

fumia

【あらすじ】

よくDNAで身元を特定したというけれど……。

「……この遺体からDNAを採取し検査した結果、行方不明として……。」

テレビ画面の向こうで、キャスターがDNAの一致によって身元不明の腐乱死体の出自が割れたと報じている。よくあるニュースだ。最新の科学の成果とは素晴らしい。実にそう思う。

しかし、大学で遺伝子操作を専攻している俺は、どうもこの手のニュースに懐疑的に思う所があり、その所為でうっかりと漏らしてしまった独り言を、外科医をしている父親に聞かれてしまった。

「何か、言ったか？」

テレビの画面から視線を外して此方に顔を向けた父親に、俺はもう一度、今度ははっきりとした口調で先程独り言ちた言葉を繰り返した。

「いやさあ。これって、どうやってその人の身元を照合したのかなあ？」

「どうやっても何も、DNAが一致したからに決まっているだろ。お前、大学でバイテクを習っている癖に……。大学まで行って何やっているんだ？」

親父は半ば小馬鹿にするように、半ば叱りつけるように言い放ったが、俺だってそこまで間抜けではない。

親父がまだ、俺が疑問に感じる所へ思い至っていない様子だったので、俺はそれを説明する事にした。

「そんな事解っているよ。父さん……。2つのDNAを比較したら一致した。これは当たり前でしょう。」

「じゃあ、何が不満なんだ？」

「まあまあ……。問題はさ、一方のDNAを身元不明の御遺体から採取したとして……。だ。肝心の身元を照合するためのサンプルは何

処から調達してくるのさ？」

「……………！」

「その人に犯罪歴があつて、警察の犯罪者ファイルにDNAのサンプルが保存してあつたのなら楽勝かもしれないけれどさ。普通に生きていてお国へ自分のDNAのサンプルを提出する機会なんて、まずありませんよ。」

「そりゃあ……………、そうか……………」

親父も、俺の真意に気付いて納得したらしい。

「さて、そんな市井の人が何の手掛かりも残さずに死体で見つかつて、いざDNA捜査をして身元を割り出そうとする時に、肝心の出自のはっきりしたその人のサンプルはどうやって確保するんだろう？僕はそう思う訳ですよ、父さん。」

「さあなあ……………」

父親も皆目見当がつかないのか、両腕を組んで空を仰いだ。

「お前は、どう思う？」

親父から振られたから、俺は自分なりの意見を彼に述べた。

「多分、身元を割り出す前に遺体の放射線炭素残量等から大体の死亡時期を割り出し。そこから遺体が発見された地帯でその時期に行方不明になっている人を捜索願の中から絞込み。更にその人の遺族というか、2親等以内の親族を探しだしてサンプルを提供して貰つて、その近似値から大凡の出自を確定させている……………のではないかと……………」

「恐らく……………。それで合っているんじゃないか？」

俺が一通り話し終わって沈黙した後、面倒臭そうに静かな口調でそう言った父親は、またテレビの方へ視線を向けた。

テレビでは、既にキャスターが喋るニュースの話題が、疾うの昔に別の物へと移っていた。

終

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4502ba/>

DNA捜査

2012年1月12日02時55分発行